

『失われた時を求めて』だけでも長いのに、あわせて読みたい100冊プラスα

100冊というより100人の著者を選び、それぞれ入手可能な本・新刊を優先、日本語（訳）のみ。*は品切れ。

手元にそろえておきたいプルーストの翻訳 —— 『失われた時を求めて』、評論、書簡

- i. プルースト著・吉川一義訳『失われた時を求めて』岩波文庫、全14巻（既刊13巻）
- ii. 井上究一郎訳『失われた時を求めて』ちくま文庫、全10巻*
- iii. 鈴木道彦訳『失われた時を求めて』集英社文庫ヘリテージシリーズ、全13巻
- iv. 高遠弘美訳『失われた時を求めて』光文社古典新訳文庫、全14巻（既刊6巻）
- v. 『プルースト全集』筑摩書房、全18巻+別巻*
- vi. 『プルースト評論選』保荊瑞穂編、ちくま文庫、全2巻（文学篇、芸術篇）*
- vii. プルースト＝ラスキン『胡麻と百合』吉田城訳、筑摩書房*

『失われた時を求めて』の隣に

1. プルースト『楽しみと日々』岩崎力訳、岩波文庫
2. ジャン＝イヴ・タディエ『評伝プルースト』吉川一義訳、筑摩書房、上下巻
3. フィリップ・ミシェル＝チリエ『事典 プルースト博物館』保荊瑞穂監修、筑摩書房
4. 吉川一義『プルーストと絵画 レンブラント受容からエルスチール創造へ』岩波書店

「趣味は読書」から「文学研究」へ —— 大学で「文学」を学ぶということ

5. 辻邦生『背教者ユリアヌス』中公文庫、全4巻
6. 佐藤信夫『レトリック感覚』講談社学術文庫
7. 平井啓之『ランボオからサルトルへ フランス象徴主義の問題』講談社学術文庫*
8. 蓮實重彦『物語批判序説』講談社文芸文庫

卒論1997 —— 物語論（ナラトロジー）とテーマ批評（テマティック）から脱構築へ

9. モーリス・ブランショ『来るべき書物』粟津則雄訳、ちくま学芸文庫（「プルーストの経験」）
10. ジョルジュ・プーレ『プルースト的空間』山路昭・小副川明訳、国文社
11. ジル・ドゥルーズ『プルーストとシーニュ 文学機械としての《失われた時を求めて》 増補版』宇波彰訳、法政大学出版局
12. ジェラルド・ジュネット『物語のディスクール 方法論の試み』花輪光・和泉涼一訳、書肆風の薔薇*
13. ポール・ド・マン『読むことのアレゴリー ルソー、ニーチェ、リルケ、プルーストにおける比喩的言語』土田知則訳、岩波書店*
14. 土田知則『現代思想のなかのプルースト』法政大学出版局

修論1999～博論2008 —— メディア論、言語行為論、社会学をへて、表象の文化史へ

15. ジャック・デリダ『滞留』湯浅博雄監訳、未來社
16. ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義 メディオロジーから情報社会へ』水島久光監訳、西兼志訳、書籍工房早山
17. ピエール・ブルデュー『パスカルの省察』加藤晴久訳；『男性支配』坂本さやか・坂本浩也訳、藤原書店
18. 石井洋二郎『文学の思考 サント＝ブーヴからブルデューまで』東京大学出版会*
19. ナタリー・エニック『物語のなかの女たち アイデンティティをめぐって』内村瑠美子・山県直子・鈴木峯子訳、青山社*
20. ジャック・ルゴフほか『歴史・文化・表象 アナール派と歴史人類学』二宮宏之訳、岩波書店（ロジェ・シャルチエ「表象としての世界」）
21. アントワーヌ・コンパニオン『文学をめぐる理論と常識』中地義和・吉川一義訳、岩波書店*
22. アラン・コルバン『空と海』小倉孝誠訳、藤原書店
23. カルロ・ギンズブルグ『ピノッキオの眼 距離についての九つの省察』竹山博英訳、せりか書房
24. ミハイル・バフチン『小説の言葉』伊東一郎訳、平凡社ライブラリー

表象文化史 —— 技術革新、第一次世界大戦、ユダヤ、同性愛

25. ヴォルフガング・シヴェルプシュ『鉄道旅行の歴史 19世紀における空間と時間の工業化』加藤二郎訳、法政大学出版局
26. ブラッサイ『プルースト／写真』上田睦子訳、岩波書店*
27. 塚本昌則編『写真と文学 何がイメージの価値を決めるのか』平凡社（「プルーストと写真——記憶、知覚、人間関係の比喩として」）
28. 鈴木雅雄・塚本昌則編『〈前衛〉とは何か？ 〈後衛〉とは何か？ 文学史の虚構と近代性の時間』平凡社（「隠喩としての電話——プルーストとフロイトにおける無意識のコミュニケーション」）
29. 吉見俊哉『「声」の資本主義 電話・ラジオ・蓄音機の社会史』河出文庫
30. 桑瀬章二郎編『書簡を読む』春風社（「文通への抵抗、手紙のなかの隠喩」）
31. イタロ・カルヴィーノ『アメリカ講義 新たな千年紀のための六つのメモ』米川良夫・和田忠彦訳、岩波文庫
32. ジャン＝ジャック・ベッケール、ゲルト・クルマイヒ『仏独共同通史 第一次世界大戦』剣持久木・西山暁義訳、岩波書店
33. 久保昭博『表象の傷 第一次世界大戦からみるフランス文学史』人文書院
34. ハンナ・アーレント『全体主義の起原 I 反ユダヤ主義』大久保和郎訳、みすず書房
35. G・デュビィ、M・ペロー監修『女の歴史4 19世紀2』杉村和子・志賀亮一監訳、藤原書店
36. イヴ・コゾフスキー・セジウィック『クローゼットの認識論 セクシュアリティの20世紀』外岡尚美訳、青土社

プルーストとその時代

37. 保莉瑞穂『印象と隠喩』ちくま学芸文庫*
38. 工藤庸子『プルーストからコレットへ いかにして風俗小説を読むか』中公新書*；『砂漠論』左右社
39. 吉田城『《失われた時を求めて》草稿研究』平凡社*
40. 阿部宏慈『プルースト 距離の詩学』平凡社*
41. 海野弘『プルーストの浜辺 《失われた時を求めて》再読』柏書房
42. 鹿島茂『《失われた時を求めて》の完読を求めて 「スワン家の方へ」 精読』PHP研究所
43. 山田登世子『女とフィクション』藤原書店
44. 小倉孝誠『逸脱の文化史 近代の〈女らしさ〉と〈男らしさ〉』慶應義塾大学出版会
45. 松浦寿輝『表象と倒錯 エティエンヌ＝ジュール・マレー』筑摩書房

17世紀フランス文学 —— モラリスト文学と古典主義演劇

46. 『セヴィニエ夫人手紙抄』井上究一郎訳、岩波文庫*
47. 『ラ・ロシュフコー箴言集』二宮フサ訳、岩波文庫
48. ラ・ブリュイエール『カラクテル 当世風俗誌』関根秀雄訳、岩波文庫、全3巻
49. ラシーヌ『フェードル、アンドロマック』渡辺守章訳、岩波文庫*
50. オディール・デュスッド／伊藤洋監修『フランス17世紀演劇事典』中央公論新社*

19世紀フランス文学 —— 小説、詩、博物誌、宗教建築史

51. バルザック『ゴリオ爺さん | 幻滅 (抄) | 浮かれ女盛衰記第四部』野崎歓編、集英社文庫ヘリテージシリーズ・ポケットマスターピース
52. フローベール『ブヴァールとペキュシェ』菅谷憲興訳、作品社
53. ボードレール『悪の華』安藤元雄訳、集英社文庫；『全詩集 I』阿部良雄訳、ちくま文庫
54. ネルヴァル『火の娘たち』中村真一郎／入沢康夫訳、ちくま文庫*
55. 安藤元雄ほか編『フランス名詩選』岩波文庫（ユゴー、マラルメ）
56. ミシュレ『海』加賀野井秀一訳、藤原書店；『博物誌 虫』石川湧訳、ちくま学芸文庫*
57. 『完訳 ファーブル昆虫記』奥本大三郎訳、集英社（第1巻下）
58. メーテルリンク『花の知恵』高野歩訳、工作舎
59. エミール・マール『ヨーロッパのキリスト教美術 12世紀から18世紀まで』柳宗元／荒木成子訳、岩波文庫、上下巻

プルーストが愛読した外国文学・思想

60. 『ガラン版 千一夜物語』西尾哲夫訳、岩波書店、全6冊（既刊1巻）
61. ショーペンハウアー『意志と表象としての世界』西尾幹二訳、中公クラシックス、全3巻
62. ラスキン『ヴェネツィアの石』井上義夫編訳、みすず書房
63. トルストイ『戦争と平和』藤沼貴訳、岩波文庫、全6巻
64. ドストエフスキー『白痴』木村浩訳、新潮文庫、上下巻
65. ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』廣野由美子訳、光文社古典新訳文庫、全4巻（既刊1巻）
66. スティーヴンソン『ジークル博士とハイド氏 | 自殺クラブ | 死体泥棒 | ファレサーの浜 | 驢馬との旅ほか』辻原登編、集英社文庫ヘリテージシリーズ・ポケットマスターピース

プルーストの同時代人たち

67. エミール・ゾラ『パリ』竹中のぞみ訳、白水社、上下巻
68. ロマン・ロラン『ピエールとリュース』宮本正清訳、みすず書房
69. ヴァレリー・ラルボー『幼なごころ』岩崎力訳、岩波文庫*
70. コレット『シェリ』工藤庸子訳、岩波文庫
71. ジョージ・メレディス『エゴイスト』朱牟田夏雄訳、岩波文庫、上下巻*
72. ヴァージニア・ウルフ『灯台へ』御輿哲也訳、岩波文庫
73. ホフマンスタール『チャンドス卿の手紙 他十篇』檜山哲彦訳、岩波文庫
74. リルケ『マルテの手記』望月市恵訳、岩波文庫*；松永美穂訳、光文社古典新訳文庫
75. ウルフほか『レズビアン短編小説集 女たちの時間』利根川真紀編訳、平凡社ライブラリー
76. ワイルドほか『ゲイ短編小説集』大橋洋一監訳、平凡社ライブラリー
77. ベルクソン『時間と自由』中村文郎訳、岩波文庫；平井啓之訳、白水Uブックス
78. フロイト『日常生活の精神病理学』高田珠樹訳、『全集7 1901年』岩波書店*

プルーストの後継者たち（数字は原著の出版年）

79. サミュエル・ベケット『プルースト』大貫三郎訳、せりか書房 1931
80. ブルーノ・シュルツ『シュルツ全小説』工藤幸雄訳、平凡社ライブラリー 1933, 1937
81. ヴァルター・ベンヤミン『ベンヤミン・コレクション3 記憶への旅』浅井健二郎編訳、ちくま学芸文庫（『一九〇〇年頃のベルリンの幼年時代』）1938
82. ジョゼフ・チャプスキ『収容所のプルースト』岩津航訳、共和国 1940-1941
83. ナタリア・ギンズブルグ『ある家族の会話』須賀敦子訳、白水Uブックス 1963
84. スタニスワフ・レム『高い城・文学エッセイ』芝田文乃訳、国書刊行会 1966
85. ナボコフ『記憶よ、語れ 自伝再訪』若島正訳、作品社 1966
86. ジョルジュ・ペレック『Wあるいは子供の頃の思い出』酒詰治男訳、水声社 1975
87. ロラン・バルト『明るい部屋 写真についての覚書』花輪光訳、みすず書房 1980
88. クロード・シモン『路面電車』平岡篤頼訳、白水社 2001

プルーストと読み比べてみたい日本文学

89. 堀辰雄『風立ちぬ 美しい村』岩波文庫 1934
90. 中村真一郎『死の影の下に』講談社文芸文庫 1947
91. 福永武彦『死の島』講談社文芸文庫、上下巻 1971*
92. 村上春樹『1Q84』新潮文庫、全6巻 2009-2010
93. 北杜夫『幽霊——或る幼年と青春の物語』新潮文庫 1954
94. 中井英夫『虚無への供物』講談社文庫、上下巻 1964
95. 吉田健一『東京の昔』ちくま学芸文庫 1974
96. 黒田夏子『abさんご・感受体のおどり』文春文庫 2012
97. 磯崎憲一郎『電車道』新潮文庫 2015
98. 松浦理英子『最愛の子ども』文藝春秋 2017
99. 小山田浩子『庭』新潮社 2018
100. 中井久夫『記憶、徴候、外傷』みすず書房 2004

立教大学公開セミナー「新訳でプルーストを読破する」全14回

ゲスト講師と司会の関連主要著作

1. 吉川一義『プルーストの世界を読む』岩波書店
2. 工藤庸子『近代ヨーロッパ宗教文化論 姦通小説・ナポレオン法典・政教分離』東京大学出版会
3. 石橋正孝『大西巨人 闘争する秘密』左右社
4. 湯沢英彦『プルースト的冒険 偶然・反復・倒錯』水声社
5. 根本美作子『眠りと文学 プルースト、カフカ、谷崎は何を描いたか』中公新書＊／ピエール・パシエ『母の前で』岩波書店
6. 阿部公彦『文学を《凝視する》』岩波書店
7. 高橋方子『記憶の小瓶』クレヨンハウス；『4ミリ同盟』福音館書店 2018
8. 野崎歓『フランス文学と愛』講談社現代新書
9. 青山七恵『めぐり糸』集英社文庫 2013
10. 小黒昌文『プルースト 芸術と土地』名古屋大学出版会
11. 青柳いづみこ『音楽と文学の対位法』中公文庫
12. 中野知律『プルーストと創造の時間』名古屋大学出版会
13. 柴崎友香『わたしがいなかった街で』新潮文庫 2012
14. 吉川一義『プルースト美術館——『失われた時を求めて』の画家たち』筑摩書房＊
15. 坂本浩也『プルーストの黙示録——『失われた時を求めて』と第一次世界大戦』慶應義塾大学出版会

https://twitter.com/proust_rikkyo
proust.rikkyo@gmail.com

関連論文

1. 「プルースト、電話と小説」、『年報 地域文化研究』第5号, 2002, p. 166-185.
2. 「メディアオロジー生成のコンテクスト (1979-1996年を中心に)」、『Résonances』創刊号, 2003, p. 157-164.
3. 「自転車をめぐるフィクション 19世紀末フランスにおける速度の詩学と性差のイデオロギー」、『ヨーロッパ研究』第3号, 2004, p. 81-98.
4. 「プルーストと自動車旅行の美学 『スピード時代の芸術』から『ネットワーク』としての小説へ」、『日本フランス語フランス文学会関東支部論集』第14号, 2005, p. 179-192.
5. 「ルパン誕生前のルブラン——スピードの魅惑」、『大衆文化』第5号, 2011, p. 10-20.
6. 「ベルエポックの自動車旅行——オクターヴ・ミルボー『6 2 8 - E 8』における速度と都市」, 澤田直編『移動者の眼が露出させる光景——越境文学論——』弘学社, 2014, p. 79-112.
7. 「プルーストの晴雨計人形」、『立教大学フランス文学』第45号, 2016, p. 43-50.
8. 「プルーストの風景描写におけるジャポニスム——コンブレからバルベックへ——」、『立教大学フランス文学』第47号, 2018, p. 45-61.
9. 「マルセル・プルーストのジュール・ヴェルヌ的側面? 小説と科学の大衆化」、『立教大学フランス文学』第48号, 2019, p. 125-138.

日本プルースト研究会の公式サイト

<http://proustjp.g2.xrea.com/index.html>

「プルースト書誌」(会員による業績リスト、1998年以降)や「海外新刊案内」が閲覧できます。

フランス国立学術センター CNRS、近代テキスト草稿研究所 ITEM、プルースト研究班のリンク集

<http://www.item.ens.fr/fonds-proust-numerique/>

フランス国立図書館に所蔵されているプルーストの草稿資料を閲覧するのに便利。